

岐阜市歴史博物館分館

加藤栄三・東一記念美術館

〒500-8003 岐阜市大宮町 1-46 (金華山ロープウェー駅横)

TEL・FAX (058) 264-6410

開館時間：午前9時～午後5時(午後4時30分までにご入館ください)

休館日：月曜日、年末年始12/28(水)～1/3(火)、1/10(火) ※1/9(月)は開館

観覧料：高校生以上300円(団体240円)、小中学生150円(団体90円)

※下記の方は無料となりますので、①②の方は証明できるものをご提示ください。

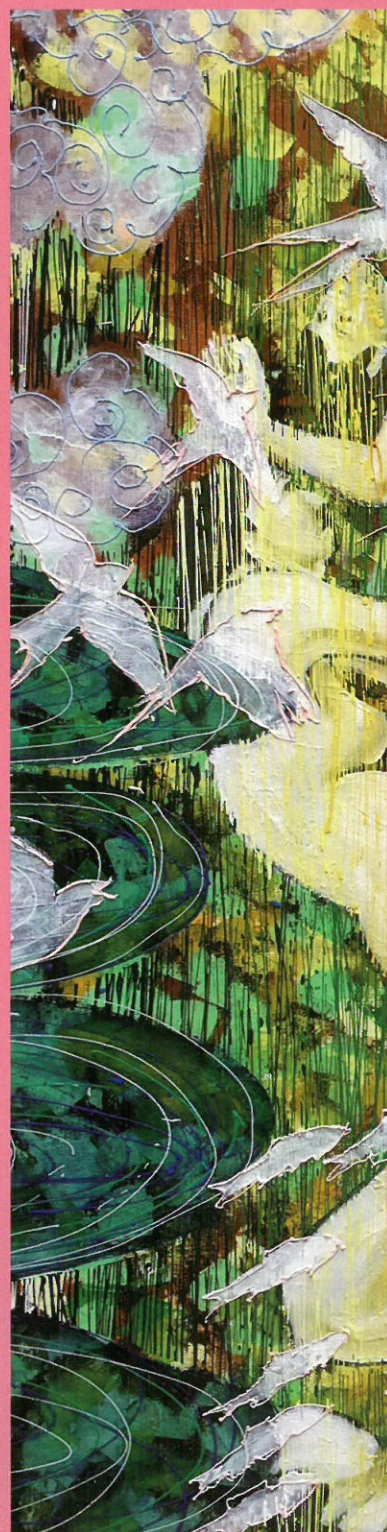
①岐阜市在住の70歳以上の人。

②身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳をお持ちの方とその介護者1人

③岐阜市内の小中学生

④家庭の日【12月18日(日)、1月15日(日)、2月19日(日)】に入館する中学生以下の方とその家族の方

注意：このフライヤーでの入場はできません。



いのちの輝き

布山淳一・幸子 二人展

2016. 11. 29 火

～2017. 3. 5 日



— いのちの輝き —

布山淳一・幸子 二人展

私どもは、学生時代からそして結婚後も40年間岐阜の地で制作を続けてきました。毎年「雑魚展」を中心に発表を継続してまいりました。その中で友や多くの方々との出会いや皆様の温かいお言葉に励まされ、これまでたくさんのエネルギーを頂いてまいりました。今の自分たちがあるのはそのおかげだと感謝しています。

淳一は油絵を描き、「いのちの輝き」と題して近作を展示します。○△□は美濃国武儀出身の仙厓義梵の禅画から着想を得、○は宇宙、真理又水を、△は瞑想の形で炎を象徴し、□は迷い、大地を表すという。人のいのちの営みを母性としての女性、水、空気、炎、雲、燕、魚などわたしたちを取り巻く生命の形を描くことでその煌きを感じていただけの作品にできたらと願っています。また、油絵にこだわることは、その乾き待ちをしながら、自分の遅々とした歩みを実感しながら、毎日の生活の生きるリズムだと思えます。

幸子は油から木版画、人形づくりなど制作に変化はありましたが、版画作品何点かと陶人形、石塑人形(手描きアクリル彩色、古布を貼り付けたもの)などこれまでの代表作や近作を展示します。造形作家として命の大切さを笑いと愛情に託して表現し続けてきました。版画は自身の生活そのものです。人形は希望を込めてつくりだしました。人形は苦しさの中で自分自身を励ますことから生み出されました。人形たちと一緒に笑ってほっこりしていただけたらと思います。

二人ともに過去でもなく未来でもなく時代を超えての今現在を表現していきたいと願いながら、ともに年を重ねて、生きていくいろいろな思いや自分自身が作品の中に表せるよう互いに切磋琢磨していきたいと思えます。まだまだ技法や表現はつたないものとは思いますが、見ていただく方々に楽しい時間を過ごしていただき、生きる喜びを感じ取っていただければ幸いです。



布山 淳一 JUNICHI NUNOYAMA

画家。1951年岐阜生まれ。1974年岐阜大学美術工芸学科卒業。1977年より毎年グループ「東展」「四つの個展」「7つの個展」「雑魚展」等で発表(岐阜・高山)。1980年から個展、二人展、ふーふ展、平和美術展、その他(名古屋、岐阜、高山、東京)2014年より「白川郷芸術祭」参加。2013年より「gallery 満喜田」(高山)をオープン。現在日本美術家連盟会員、岐阜市展審査員。

布山 幸子 YUKIKO NUNOYAMA

造形作家。版画家。高山生まれ。1974年から発表を続け、1993年から人形づくりを始める。二紀会、県展、中日展、市展、四つの個展、7つの個展、手のわざ展、雑魚展、ギャラリーフィナル国際美術展、現代版画コンクール展、版画協会展、日仏現代美術展、春陽会展、日中友好版画展、岐阜版画会選抜展、プザンソン美術館版画展等出品、入選、入賞(東京、大阪、名古屋、岐阜、フランス)。個展、ふーふ展等多数。

岐阜市歴史博物館分館 加藤栄三・東一記念美術館

〒500-8003 岐阜市大宮町1-46(金華山ロープウェー駅横) TEL・FAX (058) 264-6410

開館時間：午前9時～午後5時(午後4時30分までにご入館ください)

休館日：月曜日、年末年始12/28(水)～1/3(火)、1/10(火) ※1/9(月)は開館

観覧料：高校生以上300円(団体240円)、小中学生150円(団体90円)

